

# 全英文法 チェックリスト

英文法の全体像を把握できるように工夫しました。高3までに学習する全英文法事項を細部まで網羅しています。  
 ※汎用的な英文法事項をまとめており、語法は一部を除き加えていません。また、中1内容の特に基礎的な部分も加えていません。

チェックリスト WEB版(スマホにも対応) : <https://www.eevideo.net/sp/eibunpou-list.html>  
 動画で学ぶ英文法 : <https://www.eevideo.net/grammar/>



## 1. 品詞, 文型

- 品詞には**名詞, 動詞, 形容詞, 副詞**などがある。
- 副詞は動詞や文全体を修飾し「どのように」「どこで」「いつ」などを表す。場所や時を表す品詞には副詞の他に名詞があるが、名詞の場合は前に**前置詞**が必要。  
 He went **there** yesterday. (どちらも副詞)  
 He went **to the library in the morning**. (どちらも名詞)  
 ※every などが付くと(every morning)副詞句になり、前置詞は不要。
- 一般動詞の後に置かれ主に「～を」を表す名詞が**目的語**, be 動詞の後に置かれる名詞や形容詞が**補語**。
- 補語を取る動詞にはbe 動詞だけではなく、一部の一般動詞(不完全動詞)もある。keep(状態), become(変化), look(感覚)などが該当。  
 She **is** happy. She **became** happy. She **looks** happy.
- 補語には名詞や形容詞だけではなく、分詞(現在分詞, 過去分詞)が使われることもある。  
 She is **happy**.  
 She is **sleeping**. 【現在分詞】  
 She is **satisfied**. She is **loved**. 【過去分詞】  
 ※be 動詞+現在分詞は**進行形**, be 動詞+過去分詞は**受動態**。
- 1語で完結した動詞(swim など)が**自動詞**, 目的語が必要な動詞(have など)が**他動詞**。動詞の多くは自動詞と他動詞の両方で使われ意味も変わらないが(study など), 意味が変わる動詞もある。  
 He **runs** every morning. (走る) 【自動詞】  
 He **runs** small restaurant. (経営する) 【他動詞】
- 他動詞の中には、**<目的語+目的語>**を伴うものがある。  
 My father **made** me a table. 【SVOO】
- 他動詞の中には、**<目的語+補語>**を伴うものがある。  
 My father **made** me a doctor. 【SVOC】
- 使役動詞

My father **made** me study English. 【SVOC】

have A B	AにBされる, してもらう
let A B	AがBするのを許可する
make A B	(むりやり)AにBさせる

※Bは動詞(原形不定詞)。

- 2語以上で名詞を修飾する場合は後ろから**(後置修飾)**。  
 a way **to learn Italian** (イタリア語を学ぶ方法) 【不定詞】  
 a friend **living in Italy** (イタリアに住む友人) 【現在分詞】  
 a bag **made in Italy** (イタリア製のカバン) 【過去分詞】  
 a bag **that I bought in Italy** (イタリアで購入したカバン) 【関係詞】
- 主語や目的語が不定詞や that 節のときは, it を使うことがある。  
 It is hard **to study English**. 【仮主語 it+不定詞】  
 It is hard **that we study English**. 【仮主語 it+関係詞】  
 I found it hard **to study English**. 【仮目的語 it+不定詞】  
 I found **it hard that we study English**. 【仮目的語 it+関係詞】
- 強調のための倒置(疑問文の形)**  
 強調したい語が文頭に。以下の3パターンが中心。  
**○文頭が否定語**  
 Little does he know the fact. (その事実に少しも気づいていない)  
 Not a letter did I receive from him. (1通も手紙を受け取らなかった)  
 ※not, never, hardly, scarcely, rarely, little, no, only, nor, not only but also 等。一見否定語に感じない語も多い。  
**○文頭が形容詞, 副詞**  
 Available is a double bedroom. (ダブルベッドルームが利用できる)  
 Well do I know the road. (この道をよく知っている)  
**○文頭が場所を表す語**  
 On his left sat his mother. (彼の左側には母親が座っていた)  
 Far away across the sea lies the sunny land of Spain.  
 (海のはるか向こうに, 太陽の国スペインがある)  
 ※動詞が主語の前に置かれるが, 疑問文の形にはならない。  
 ハイレベル 節が文頭に来ることもある。  
 Only when it started to rain did Jim noticed that he didn't have an umbrella. (雨が降り始めるまで, ジムは自分が傘を持っていないことに気付かなかった)

## 2. 準動詞

動詞の原形に to~, ~ing, ~ed などが付くと, 動詞以外の様々なはたらきをする。

- 不定詞(名詞的用法), 動名詞 <to ~, ~ing>**  
 ふつうの名詞と同じように, 主語や目的語, 補語になる。  
 He likes **to study** English. (～すること) 【不定詞(名詞的用法)】  
 He likes **studying** English. (～すること) 【動名詞】  
 ○目的語として不定詞, 動名詞のどちらかしか取れない動詞もある。  
 He wants **to study** English. (want は不定詞のみ)  
 He enjoys **studying** English. (enjoy は動名詞のみ)  
 ○不定詞の前に疑問詞が付くとその意味が添えられる。  
**how to study English, when to study English**  
 ○前置詞の後には動名詞しか置くことができない。  
 He went to bed after **studying** English.  
 ○不定詞の受動態(～されること): to being+過去分詞 ハイレベル

He is used to **being attacked** by critics.

(批評家から攻撃されることに慣れている)

○動名詞の意味上の主語は所有格で表す。 ハイレベル

I am sure of **his** succeeding. (彼の成功を確信している)

### 不定詞(形容詞的用法)

名詞を後から修飾し「～するための」などの意味になる。

He knows a good way **to study** English. (英語を勉強するよい方法)

### 不定詞(副詞的用法)

○おもに文末に置かれ補足説明をする。

He went to America **to study** English. 【～するために(目的)】

He is happy **to study** English. 【～して(感情の原因)】

He is clever enough **to become** a doctor. 【～なんて(判断の根拠)】

He grew up **to become** a doctor. 【そして～した(結果)】

Old people are slow **to accept** new technology. 【形容詞を修飾】

### □不定詞の意味上の主語<for~, of~>

I cleaned the room **for him** to take photos.  
(彼が写真を撮れるように~)

It is kind **of you** to invite me. ハイレベル  
(招いてくれるとはあなたは親切だ)  
※人の性格を表すときは of~。

### □不定詞の受動態<to be+過去分詞>

Everyone wants **to be loved** by someone.  
(誰かに愛されたいと思っている)

### □予定や義務を表す be to~

「~することになっている」という意味になる。  
I am **to meet** him today. (彼に会うことになっている)  
You are **to wait** your turn. (自分の番を待たなければならない)

### □現在分詞, 進行形<~ing>

「~している」という意味。形容詞的に使われ、ふつうの形容詞と同じように名詞を修飾したり、be 動詞の補語(進行形)になる。  
**studying** boys, boys **studying** English 【名詞を修飾】  
Tom is **studying** English now. (今、勉強している)【進行形】  
※2語以上の場合は、後ろから名詞を修飾(後置修飾)。通常は2語以上のため、後置修飾が一般的。

### □過去分詞, 受動態<~ed>

「~される, された」という意味。形容詞的に使われ、ふつうの形容詞と同じように名詞を修飾したり、be 動詞の補語(受動態)になる。  
**boiled** eggs → eggs **boiled** hard  
(ゆでられた卵→ゆで卵)【名詞を修飾】  
This egg is **boiled**. (卵はゆでてある)【受動態】  
※2語以上の場合は、後ろから名詞を修飾(後置修飾)。通常は2語以上のため、後置修飾が一般的。  
※過去分詞には不規則変化も多い。

○助動詞を含む受動態<助動詞+be+過去分詞>  
The car must **be repaired**. 修理されなければならない

○進行形の受動態<be 動詞+being+過去分詞>  
The car is **being repaired**. 修理されているところだ

○受動態+不定詞  
He is known **to be a great writer**.  
(偉大な作家として知られている)  
※不定詞で補足説明をしている。

○感情や被害を表す受動態  
I am **satisfied** with the result.

satisfy (満足させる) → satisfied(満足させられている)  
※感情や被害はきっかけがあつて起こるため、英語では「~される」と受動態で表すことが多い。

### □現在分詞, 過去分詞の注意点

○意味を取りにくい場合は元の動詞の意味に注意する。 ハイレベル  
a **satisfying** result (満足させる結果 → 満足する結果)  
a **satisfied** boy (満足させられた少年 → 満足した少年)  
**falling** snow (降っている雪)  
**fallen** snow (降らされた雪 → 積もった雪)  
※satisfy は「(人)を満足させる」、fall は「降る」という意味。

### □分詞構文

現在分詞1語で「~するとき」、過去分詞1語で「~されているので」など、接続詞の意味を伴うはたらきをする。  
**Walking** down the street, I met him. (道を歩いている時~)  
**Written** in easy English, I like this book.  
(平易な英語で書かれているので~)  
with A+ ~ing, ~ed で付帯状況を表す。 ハイレベル  
He sat on the bench **with his arms waving**. (手を振りながら~)  
He sat on the bench **with his arms crossed**. (腕を組んで~)

### □SVO+O(不定詞)

I advised him **to take** a rest. (彼に休息をとるように~)  
I feel this book **to be** very interesting. (本をおもしろいと~)

### □SVO+O(分詞), SVO+O(原形不定詞) ハイレベル

I found the dog **barking** at me. (犬が私に吠えていることが~)  
I found the dog **abandoned**. (犬が捨てられていることが~)  
I saw the dog **barking(bark)**. (犬が吠えていることが~)  
I let the dog **bark**(×barking). (犬に吠えさせてあげた)  
I made him **clean**(×to clean) the room. (彼に部屋を掃除させた)  
※saw など知覚動詞は原形不定詞がくることもある。使役動詞(make, have, let)は必ず原形不定詞がくる。

### □準動詞の語順 ハイレベル

準動詞には元の動詞の語順(動詞-目的語など)が生きている。  
【元の動詞の語順: communicate with each other】  
Whales have the ability **to communicate with each other**.  
(クジラには互いに意思を伝える能力がある)  
What should we do **to communicate with each other**?  
(互いに意思を伝えるには何をすべきですか)  
**Communicating(To communicate) with each other** is hard.  
(互いに意思を伝えることは難しい)

## 3. 疑問詞, 関係詞, 接続詞

### □疑問詞

**Who** do you want to talk to? (あなたは誰と話したいのですか)  
**Who** wants to talk to you? (誰があなたと話したいのですか)  
※後のように疑問詞が主語のときは、後が肯定文の形になる。

### □感嘆文

**What** an exciting movie (this is)!  
**How** exciting (this movie is)!  
※( )部分はよく省略される。  
○文の前に how をおいて強調することがある。 ハイレベル

**How** I wish I could travel around the world.  
(世界中を旅行したいなあ)

### □that 節, whether(if)節

○名詞節になり、ふつうの名詞と同じように主語や目的語、補語などになる。  
I know **that he drives the car**. (彼がその車を運転すること)  
Do you know **whether(if) he drives the car**?

(彼がその車を運転するかどうか)  
○感情の原因を表す that 節 ハイレベル  
I was glad **that** he was alive. (彼が生きていたことが~)

### □同格の that ハイレベル

**The fact that he knew it** was shocking to me.  
(彼がそれを知っていたという事実は~)  
※「The fact=that he knew it」の関係がある。  
**The fact that he knew** was shocking to me.  
(彼が知っていた事実は~)【関係代名詞】  
※he knew は The fact を修飾している。

### □間接疑問文

名詞節になり、ふつうの名詞と同じように主語や目的語、補語などになる。疑問詞の後は肯定文の語順。  
Please tell me **when he drives the car**.  
(彼がいつその車に乗るのか教えて下さい)

### □関係代名詞 who, whom (that)

a boy **who(that)** loves Emily (エミリーを好きな少年)【主格】

a boy **whom(that)** Emily loves (エミリーが好きな少年)【目的格】  
 ※目的格の関係代名詞はよく省略される。

□関係代名詞 **which (that)**

a radio **which(that)** was made in 1980  
 (1980年に製造されたラジオ)【主格】  
 a radio **which(that)** we made in 1980  
 (1980年に我々が製造したラジオ)【目的格】  
 ※目的格の関係代名詞はよく省略される。

□関係代名詞 **whose**

a radio **whose speaker** broke down  
 (スピーカーが壊れたラジオ)【主格】  
 a radio **whose speaker** I broke  
 (スピーカーを私が壊したラジオ)【目的格】  
 ※whose は人とももの両方に使われる。

□関係代名詞 **what「～のもの(こと)」**

**what** I want (私が欲しいもの)  
**what** is important for me (私にとって重要なこと)

□関係副詞 **when, where**

the period **when(in which)** he worked (彼が働いていた期間)  
 the company **where(in which)** he worked (彼が働いていた会社)  
 ※どちらも in which で代用できる。

○修飾される名詞のはたらきを兼ねることもある。 **ハイレベル**  
 Spring is **when** the rainy season begins. (雨季が始まる時期)  
 This is **where** I was born and raised. (私が生まれ育った場所)

□関係副詞 **why, how**

the reason **why** we work (我々が働く理由)  
**how** we solved the problem (我々がその問題を解決した方法)  
 ※how は修飾される名詞のはたらきを兼ねている。

□関係詞にカンマが付くとき **ハイレベル**

カンマがあるときは、その前で一旦意味が切れる。  
 She has a son **who** is a doctor.  
 (医者の子が1人いる → 息子は1人とは限らない)  
 She has a son, **who** is a doctor.  
 (息子が1人いるが、彼は医者だ → 息子は1人だけ)  
 ※カンマがあるときは、目的格でも関係詞を省略できない。

□関係代名詞 **～ever**

I like **whatever** you like.  
 (あなたの好きなことなら何でも好きだ)  
**Whatever** you like, I like it.  
 (あなたの好きなことなら何でも、好きだ)  
 ※2文は同じ意味。whatever～は上では名詞のはたらき、下では文のはたらきをしている。

whatever～	～なら何でも
however～	どんなに～でも
wherever～	～ならどこでも
whenever～	～ならいつでも
whichever～	～ならどれでも
whoever (whomever)～	～ならだれでも

□接続詞 **ハイレベル**

○接続詞に続く文は補足説明をしている。接続詞の多くはこのタイプ。  
 He lost weight **because** he had a bad cold.【**従位接続詞**】  
 (体重を減らしたが、それは風邪をひいたからだ)  
 ○一部の接続詞は、2つの文を対等につなげる。  
 He had a bad cold **and** (he) lost weight.【**等位接続詞**】  
 (風邪をひいたので、体重を減らした)  
 ※and, or, but, so, for など。

4. 助動詞,仮定法過去

□現在形の助動詞

[助動詞+一般動詞]では意思など一般的な意味を表すが、[助動詞+be動詞]では可能性を表すことが多い。  
 Dogs **can** smell a faint odor.  
 (犬はかすかなにおいをかぐことができる)【一般的な意味】  
 Dogs **can** sometimes be a nuisance.  
 (犬は時に迷惑なことがある)【可能性】

	一般的な意味(一般動詞)	可能性(be動詞)
will	～するつもりだ (≒be going to～)	～だろう
can	～できる (≒be able to～)	～はありうる (疑問文は「～だろうか」)
must	～しなければならない (≒have to～)	～にちがいない
may	～してもよい	～かもしれない
should ought to	～すべきだ	～のはずだ

※should は shall の過去形だが、現在を表すことの方が多い。shall は使われ方が限られるので、慣用表現として覚えておいた方がよい。

□過去形の助動詞の歪曲表現

助動詞の過去形 would, could, might は、過去を表すのとは別に控えめな意味を表す。過去を表すより、この用法の方が一般的。  
 Women **could** not vote 100 years ago.  
 (女性は100年前には投票できなかった)【過去の意味】

She **could** be an actress someday.

(彼女はいつか女優になれるだろう)【控えめな意味】  
 ※can より意味が弱くなる。  
**Could** you help me with this work?  
 (この仕事を手伝ってくれませんか)【控えめな意味】  
 ※can よりていねいな意味になる。

would	will(～するつもりだ、～だろう)よりひかえめな意味
could	can(～できる、～はありうる)よりひかえめな意味
might	may(～してもよい、～かもしれない)よりひかえめな意味

□助動詞の慣用表現

Shall I～?	私が～しましょうか(申し出)
Shall we～?	私たちみんなで～しましょうか(勧誘)
Will(Would, Can, Could) you～?	～してくれませんか(依頼, 勧誘)
Can(could, may, might) I～?	私は～できますか(許可)

※いずれも would, could, might など過去形を使うとよりていねいな意味になる。

□shall は、I と we 以外を主語にして話し手の意思を表すことがある。  
 My son **shall** carry your bag. **ハイレベル**  
 ((私は)息子にあなたのカバンを運ばせるつもりだ)

□will(過去形 would)は「どうしても～」と話し手の強い感情を表すことがある。 **ハイレベル**  
 An accident **will** happen. (事故はどうしても起こるものだ)

□used to は過去の規則的な習慣、would は不規則な習慣を表すことがある。 **ハイレベル**  
 He **used to** go to church, but **would** sometimes be late.

(彼はいつも)教会に行ったが、時々遅刻した)

※仮定法過去では、was の代わりに were を使うことが多い。

□**仮定法過去**

仮定法は日本語にはない表現である。

○仮定法では、現在の事実と反することを過去形で表す。

I hope I **pass** the examination. 【通常の文】

(試験に受かればなあ(受かる可能性がある))

I wish I **passed** the examination. 【仮定法過去】

(試験に受かればなあ(受かる可能性はほとんどない))

※hope と wish はどちらも「望む」という意味の動詞だが、仮定法では wish を使う。

○wish の代わりに if only を使うこともある。 ハイレベル

**If only I passed** the examination.

(試験に受かればなあ(受かる可能性はほとんどない))

○as if + 仮定法: まるで~のように ハイレベル

She talks **as if she were(was)** a little girl.

(まるで小さな女の子のように話す)

□**if~の仮定法過去**

If I **were(was)** a bird, I **could** fly there.

(もし私が鳥なら、飛んでいけるのに)

○if~のかわりに with~などを使うこともある。

**With more time, I could** go there.

(もし時間があれば、そこに行けるのに)

□**未来の仮定** ハイレベル

○未来の事実と反することも仮定法過去で表すが、if~の文に were to を使うこともある。

If the sun **were to disappear** (=If the sun **disappeared**), we **couldn't** live.

(もし太陽が消えたら、我々は生きられない)

○未来の仮定で、可能性があるときには if~の文に should を使う。

If you **should** die, your family **couldn't** live.

(もしあなたが死んだら、家族は生きられない)

**5. 完了形, 仮定法過去完了**

完了形や大過去形, 仮定法は、いずれも日本語にはない表現である。

□**現在完了形<have(has)+過去分詞>**

完了(結果), 経験, 継続の3つの意味を表す。

I **have studied** Chinese now.

(今, 勉強し終えたところだ) 【完了】

I **have studied** Chinese before.

(以前勉強したことがある) 【経験】

I **have studied** Chinese for three years.

(3年間ずっと勉強している) 【継続】

※have には「持つ」の意味が生きている。形は同じなので、文脈などからどの意味か判断する。

□**完了形でよく使われることは**

完了	now, just, already(肯定文), yet(疑問文, 否定文)
継続	for~, since~, How long~?
経験	before, often, ever(疑問文), never(否定文), once/twice など

※経験では not ではなく never を使う。

□**完了形のまぎらわしい表現** ハイレベル

have gone to~	~へ行ってしまった(その結果いない) 【完了】
have been in~	~にずっといる 【継続】 ~へ行ったことがある 【経験】
have been to~	~へ行ったことがある 【経験】 ~へ行ってきたところだ 【完了】

□**過去完了形<had+過去分詞>**

I **had already studied** Chinese.

(すでに勉強してしまっていた) 【完了】

I **had studied** Chinese before.

(以前勉強したことがあった) 【経験】

I **had studied** Chinese for three years.

(3年間ずっと勉強していた) 【継続】

※had には「持っていた」の意味が生きている。形は同じなので、文脈などからどの意味か判断する。

□**未来完了形 will have+過去分詞**

I **will have studied** Chinese by seven.

(7時までには勉強し終えているだろう) 【完了】

I **will have studied** Chinese for three years by next month.

(来月で3年のあいだずっと勉強していることになる) 【継続】

※未来完了形は経験の意味ではほとんど使われない。

□**完了形が不定詞などに過去の意味を添えるとき** ハイレベル

完了形は不定詞, 動名詞などに過去の意味を添えることがある。

He is said **to be** rich.

(裕福であると言われている)

He is said **to have been** rich.

(以前は裕福であったと(現在)言われている) 【不定詞】

He boasts of **having been** rich.

(以前は裕福であったことを(現在)自慢している) 【動名詞】

He was a good engineer, **having learned** enough skills.

(十分な技術を学んでいた) 【分詞構文】

助動詞には一般的な意味((例)can:できる)と、可能性を表す意味(can:ありうる)があるが、過去の表し方が異なる。

一般的な意味のときは助動詞の過去形で表すが、可能性を表す意味では上のように「助動詞+have」で表す

He **could** swim well. (彼は上手く泳げた) 【一般的な意味】

He **can't have** been rich. (裕福だったはずがない) 【可能性】

□**大過去形<had+過去分詞>**

英語では、過去のさらに過去のことは大過去形で表す。

The boy **was** an orphan. His parents **had died** two years before.

(少年は孤児だった(過去形)。両親は2年前に亡くなっていた(大過去形))

※過去完了形と同じ形なので、文脈などから意味を判断する。

□**時制の一致**

日本語は文末でまとめて時を表すが、英語では1つ1つの動詞で時(現在, 過去, 大過去)を表す。

He **said** that she **was** sick.

(彼は彼女が病気であると言った) 【過去+過去】

He **said** that she **had been** sick.

(彼は彼女が(以前)病気だったと言った) 【過去+大過去】

※「彼女が病気だった」のは「彼は言った」より前のこと。

He **taught** us that honesty **is** best.

(彼は正直が最善であることを教えてくれた) 【過去+現在】

※「正直が最善である」は普遍的な事実でもあるので、現在形で表すのがふつう。

□**仮定法過去完了<had+過去分詞>**

仮定法では、過去の事実と反することは大過去形で表す。

I wish I **had flown** there.

((以前)そこに飛んでいけていたらなあ)

A sensible person **would not have** said such a thing.  
 (分別がある人ならそんなことは言わなかっただろう)  
 ※過去完了形, 大過去形と同じ形なので, 文脈などから判断する。

□if~の仮定法過去完了

If I **had been** a bird, I **could have flown** there.

(もし私が(以前)鳥だったら, そこに飛んでいくことができたのに)

○Ifが省略され, 倒置になることがある。 ハイレベル

**Had I** been a bird, I **could have flown** there.

6. 比較表現

人やものの性質を表すことばが形容詞, 動作のようすを表すことばが副詞。比較には暗記すべき慣用表現が多い。

□比較表現の基本

原級 as~as: 同じく~

Mt.FUji is **as high as** Mt.Cook. (クック山と同じくらい高い)

比較級 ~er: より~

Mt.FUji is **higher** than Mt.Aso. (阿蘇山より高い)

最上級 the ~est: 最も~

Mt.FUji is **the highest** in Jpn. (日本で最も高い)

※副詞では, 最上級の the は省略するのがふつう。

He runs **(the) fastest** in the world.

□原級の注意点 ハイレベル

as~as のあいだにことばが入ると, 意味をとりにくくなる。

It is almost **as disastrous** to win a war **as** to lose one.

(戦争に勝つことは, 負けることと同じく悲惨だ)

□比較級, 最上級の注意点

○綴りが長いときは, ~er の代わりに more~, ~est の代わりに most~が使われる。

**more** beautiful, the **most** beautiful

○比較級と最上級は単に名詞を修飾することも多い。

a **taller** man than him (彼より背の高い男)

the **tallest** man on earth (地球上で最も背の高い男)

○最上級では, 範囲を示すのに in ではなく of が使われることがある。

ハイレベル

He is the **tallest in** the class. (クラスの中で)

He is the **tallest of** the three. (3人の中で)

※主語と同類の名詞を結ぶときは of が使われる。

□比較表現の不規則変化

Health is **better** than wealth. (健康はお金より大切だ)

原形	比較級	最上級
good(形) よい well(副) よく, 上手に	better	best
bad(形) 悪い ill(形) 病気で	worse	worst
many(形) 多くの much(形) 多くの	more	most
little(形) 小さい few(形) 少ない	less	least

□比較級, 最上級の強弱表現 ハイレベル

Mt.FUji is **much higher** than Mt.Aso. (阿蘇山よりずっと高い)

much, far	ずっと【比較級】
much, very, by far	ずっと【最上級】
a little, a bit	少しだけ【比較級】

□否定の比較表現の注意点 ハイレベル

○原級と比較級に nothing, no other~がつくと, 最上級の意味になる。

**Nothing** is so(as) precious as time.

(ゼロのものが時間と同じく貴重だ → 時間が最も貴重だ)

= **Nothing** is more precious than time.

**No other animal** is so(as) large as a whale.

(ゼロの他の動物がクジラと同じ大きさだ → クジラが最も大きな動物だ)

= **No other animal** is larger than a whale.

○比較級に not と no が付くとき

**not**: ふつうの否定語で「~でない」

She is **not more** active than I. (彼女は私より活動的ではない)

**no**: 「同じく~でない」

She is **no more** active than I. (彼女は私と同じく活動的でない)

※どちら私も活動的ではない という意味になる。

○less が付くとき

**not less**: 二重否定で肯定の意味。

Truth is **not less** strange than fiction.

(事実は小説より不思議だ)

**no less**: 「同じく~だ」

Truth is **no less** strange than fiction.

(事実は小説と同じく不思議だ)

※no は「差がゼロ → 同じ」という意味。

○数字の前に not, no がつくとき

**not**:

**not more than** 1000 yen → 多くとも 1000 円

**not less than** 1000 yen → 少なくとも 1000 円

**no**: ちょうど~

**no more than** 1000 yen → ちょうど 1000 円しか

**no less than** 1000 yen → ちょうど 1000 円も

※no は「差がゼロ → ちょうど~」という意味。

□原級の慣用表現 ハイレベル

as ~ as ever	相変わらず~, これまでにないほどの~
not so much A as B	Aではなくむしろ B
A as well as B	Bと同じく A も
not so much as~	~さえしない
as many as ~	~もの数(数量を強調)
as often as ~	~もの数(ひん度を強調)

□比較級の慣用表現 ハイレベル

比較級+and+比較級	だんだん~, ますます~
the+比較級~, the +比較級...	~すればするほど...
(all)the+比較級 + for(because)~	~なのでますます...
no longer~ not any more~	もはや~ではない
not any more~	もはや~ではない
sooner or later	早かれ遅かれ
more or less	多かれ少なかれ
none the less~	~にも関わらず

□最上級の慣用表現 ハイレベル

at best	よくても
at (the) earliest	早くても
at (the) most	多くても
at last	ついに
do one's best	最善を尽くす
at (the) worst	悪くても
at (the) latest	遅くても
at least	少なくとも
at one's best	~の最もよい状態で
not ~ in the least	まったく~ない
make the most of~	~を最大限に利用する
make the best of~	(困難な状況)を最大限に利用する